

MAKOTO

YOUNG BUDDHIST ASSOCIATION MAGAZINE

✿no.154

出
遇
う。



出遇う。



ひとりは気楽でいい
誰からも干渉されず 押しつけられず
伸び伸びと ただ自分のままに
今日を思うように 生きる

でも ホントにそう？
自分ひとりで 生きてきた？
誰かに 居て欲しくて
ずいぶんと 泣きじゃくって
私はここにいるんだと 背中を訴えて

そんな私を そっと包むぬくもり
あたたかさに抱かれて 気づくこと
ひとりじゃ決して 言えない言葉
「あなたがいてくれて ありがとう」

そう 私たちは誰だって
ひとりぼっちじゃ 生きていけない



Do you know 寺コン?

特集
出会う。

「寺コン」とは言葉
ご存知だろうか？

「であい」を求めて
若者たちがお寺で行う
「婚活・恋活」である

お寺という
ゆったりとした空間で
ゆるりと語り合う

素敵な時間の中で
素敵なご縁を広げる

このところ全国各地で
拡がりをみせる寺コン

この写真は
島根県で行われた
寺コンの一場面

婚活・恋活しなくても
ちよっと気になるよね

たとえばの話
お坊さんに恋しちゃって
もいいんです♥



島根の寺コン



しばらく活動休止状態だった山陰仏教が「盛り返すぜ!」と、教区の寺コン「こゝろ緑まち交流会」とコラボ。「お寺×ラテアート」を企画して蓮敬寺(島根県江津市)さんにて開催。



本堂にオシャレなカフェスペースがある蓮敬寺さん。SNSを使って遠近各地から初めてお寺に来た人も中、参加者はラテアートと抹茶アートを体験しながら「出遇い」を深めたよ♥

It's Cool!!



夜はお寺にDJとカクテルが出現! 素敵な寺空間へなんと、パーティーもDJもお坊さんも



大人の♥修学旅行



お寺・ラテアートで集まった者を中心に、10月には仏教中四国大会として「大人の修学旅行」を企画。レザークラフト、マグカップ作り、カッター体験、BBQという修学旅行のような体験を通して、さらにご縁を深めました♥



参加者から「もっと仏教の話を聞きたい」との声も。仏教入門としての寺コンもあり!



特集出遇う。

Do you know 寺コン?

寺コンの歴史

山口の寺コンは2014からほぼ毎年開催。仏教若朋会(寺族青年会)がコラボして企画する大規模な寺コン。2016の寺コンは大型バス1台を借り切って、参加者全員が丸一日バスで山口の名所をめぐる婚活。

お寺でむすぶよい縁

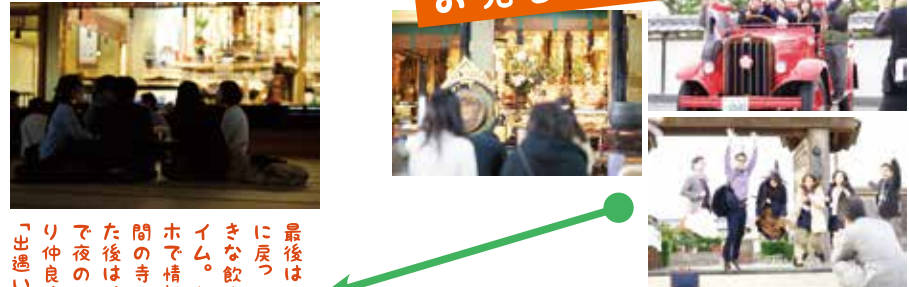


バスに乗って約2時間。車内で参加者同士の自己紹介もすっきり終わって、到着したのは最新の里で知られる城下町萩。満行寺さんで精進料理のお接待を受けました。お料理美味しすぎです。



朝のスタートは山口別院。男女別にスタッフから1日のスケジュールなど説明。

お見合いバスツアー中



午後は萩の城下町をウォークラリー。地図をたよりにチェックポイントを探し決められたポーズで写真を撮ります。自然と会話も弾み楽しそう♥

最後は再び山口別院に戻ってそれぞれ好きな飲物でフリートイム。お互いにスマホで情報交換。7時間の寺コンが終わった後は、参加者同士で夜の町へ♥じっくり仲良くなるための「出遇い」でした。

寺コンの未来

特集出遇う。

私たち、寺コンがご縁で結婚しました♡



熊本県の剛さんと真理子さん

ひとりじゃ
なごい

Q. どうしてお寺の婚活「寺コン」に参加されたのですか？

剛 「以前から寺コンが開かれたお寺とは別のお寺の仏教青年会に携わっていて、そのお寺の人から勧められ参加しました。」

真理子 「私はお寺の住職が家にお参りに来られた際に、寺コンを勧めてください、お母さんの後押しもあって参加しました。それと、お寺で開催されるという安心感もありました。」

Q. 多くの参加者の中から、お互いが惹かれた何かがあったのですか？

真理子 「最初に剛さんと話をしたのはトイレ待ちの時でした。(笑) だいたい一通りの人とお話ししたかなって時に、剛さんが仕事で遅刻して来て、それが逆に目立ってあの人と話してないなって気になりました。それで、トイレ待ちの時間にお互い挨拶して、趣味がサッカー観戦で、剛さんはフットサル

をやっていたのがわかって、それから意気投合しました。」

Q. で、その後お付き合いが続いた？

剛 「たまたま二人の仕事の休みが合う時期が一月ほど続いて、その間に二人でカフェ巡りをしたりして、色々話せる時間を持てたおかげで、お互いを知ることができました。」

真理子 「そのときですね。熊本県の10万ドルの夜景が見える場所で剛さんから告白されて交際がスタートしました。」

Q. 結婚のキッカケは？

真理子 「付き合っただして同棲しようかって話がありました。でも親からは、籍を入れるまで一緒に住むことは許さぬ！と言われてしまっ……」

剛 「私はそれを聞いて、じゃあちゃんと籍を入れて一緒に住もうって提案したら、話はトントン拍子に進んで、結婚することになりました。(笑)」

彼國の便り

「出会い」と「出遇い」



法話 山之内浩乗
仏青連盟指導講師

私のお寺は、子ども会を修了した会員を中心に、仏教青年会(仏青)を組織しています。会員みんなが知り合いなので、役員会や例会ではワイワイガヤガヤと、とにかく楽しそうです。

その中にK君という子がいました。彼はムードメーカーで、いつも会の中心人物でした。そのK君が、3年前、交通事故で亡くなったのです。仕事帰りの出来事でした。

みなさんでお通夜にお参りした後、一人ふさぎ込んでいる仏青会員がいました。話を聞いてみますと、彼は、「K君が亡くなる前日にK君とケンカをしてまだあやまつていない」と、今もなお、悩み続けている事を、私に打ちあけてくれたのです。

私は、「人間として生きていくという事は、腹が立つ事や、いやな事もいっぱいあり、それによってケンカをする事もあるでしょう。でも仏様の世界(お浄土)は、そのはからいを超えたお慈悲の世界です。お

浄土に生まれ、仏様になるという事は、ただただ私たちの幸せを願いつつ、阿弥陀様とともに、すでに私のところに、はたらき続けているんですよ。」とやさしく語りかけました。

その後、K君との別れを縁として、彼ははじめ、仏青会員は、お寺に来ると、まず本堂にお参りする様になりました。忘れていた子には「仏様への御挨拶を忘れていたよ」と誰ともなく声がかかる様になったのです。悲しみを縁として、理屈ではなくK君を感じる事の出来る世界「お浄土」があったんだ、お浄土で待っている友がいるんだと会員が出遇ったのではないのでしょうか。

「出会い」は自分が会おうという目的を持って出会う事です。一方「出遇い」は自分の思いを超えたはたらきにたまたま「出遇う」ことを言います。お寺でたくさんの方の行事が企画され「出会い」を重ねる中で、お念仏のはたらきに「出遇い」たいものです。



「仏教青年連盟結成50周年記念の集い」を振り返って 松本光生実行委員長に聞く

● 今回の集いで大変だった点は？
「組織の形態が変わって門徒中心のメンバー構成になったこと、かつ少人数スタッフでの試みだったところですね。」

● 当初のビジョンを教えてください
「参加人数が多い少ないではなく、内容が大切な事は承知の上でも、やはり参加人数にはこだわりがありました。」

● 門徒会員のみの実行委員でやりづらい点はありませんか？
「特にはありません。メンバー全員熱い想いを持って全国から集まってくださったので、やりやすかったです。」

● では逆に、躍進した点は？
「怖いもの知らずというか、これまで」

での規定路線みたいなのがなかったの、過去にとらわれず白いキャンパスに絵を描くようにできたことだと思います。」

● 思い出深いことは？
「50周年記念大会ということで、過去の資料に目を通し歴史を遡る中で、先輩たちが仏青とどのように関わってきたのか、さまざまな想いに触れたことです。」

● 楽しかったことは？
「企画から当日の運営まで、集まる時は時間をとられ大変ですが、集まった数だけスタッフ間の絆も増え、笑顔も増え、楽しかったです。」

● つらかったことは？
「体が一つしかないことですかね。(笑) 準備では企画会議にも出たい、

広報の会議にも出たい。当日も現役仏青とも交流したい、OBからも学びたい。50周年という事で参加対象を広げたためのジレンマでしたね。」

● やってみて、何か手ごたえのようなものを感じた点がありますか？
「温故知新」をテーマに、仏青に関わった人を対象に大会を行ったことで、同窓会的要素、OBが今の仏青に期待することが理解できた点や、全国で仏青に関わってくださっている方が大勢いることが分かった点においては手ごたえを感じています。」

● 大会のねらいは？
「OBの方がたも楽しんでもらい、現役メンバーにも何かの「気づき」がある大会にする事を意識しました。」

● いま改めて振り返っていかがですか？
「全国大会が3年に一度となり、全国から集まった門徒中央委員10人へ

と組織変更をして初めての大会でした。また大同窓会も同時開催と初めて尽くしの大会となりましたが、今後の大会の方向性や大会のめざすもの、新体制の中央委員の役割を知りきつかけとなった気がします。」

● 今後の展望をお聞かせください。
「仏青の魅力は、活動される個々によってそれぞれ違った意味を持つところだと思っています。例えば「テニスサークル」に加入した場合テニスをするわけですが、仏青の場合は「お寺」というキーワードを中心に、その人その人にとって色々な意味合いを持つていいと思います。人によつては「仏青＝居場所」かもしれません。「仏青＝自己研鑽の場」かもしれません。また「仏青＝出遇い」かもしれません。この魅力ある仏青は若者にとって必要不可欠な存在だと私は思っています。この仏青を次の世代へ残す、この仏青を一人でも多くの人に知ってもらう事が大切です。」



2015.4 → 2018.3
1095日・26280時間
1576880分・94608000秒

たかが3年、されど3年、長いようであっという間の3年間
時間の長さだけでは計れない、仏青中央委員としての3年間
まったく知らない者同士の人生がクロスした不思議な3年間
任期満了につき、もうそろそろ、終わろうとしている3年間
3年間ありがとうございました、3年間おつかれさまでした
この3年間をちょっと振り返ってみてもらってもいいですか

3年間の任期が今終わようとしています。
仏青と出逢い10年が経ちました。

私が仏青と出逢ったきっかけは、中学高校の親友『雷永誠君』でした。彼の『光生、京都に来て！』と全国大会の参加を呼び掛ける一本の電話が僕の人生を大きく変えたと言っても過言じゃありません。
仏青と出逢い、多くの友たちが増えました。
仏青と出逢い、多くの経験をしました。
仏青と出逢い、多くの気付きと学びをもらいました。
僕の人生をも豊かにしてくれている仏青に感謝。
僕と出逢ってくれた一人一人に感謝。
仏青とのきっかけをくれた雷永誠君に感謝。
彼の何気ない一本の電話の様に、まだ仏青と出逢っていない人に仏青を知ってもらいたい。触れてもらいたい。そんな想いで中央委員長を引き受けました。
想いだけが先行し空回りもしましたが、多くの先輩方、指導講師の先生方に助けられました。
仏青の改革、広がりはまだまだ道半ばです。
これからも色々な形で恩返しできたら幸いです。
本当にありがとうございます。



仏教青年連盟中央委員長
第2ブロック代表 高岡教区
松本光生



仏教青年連盟中央副委員長
第3ブロック代表 奈良教区
栗山佑香

3年間お疲れさまでした★

仏青中央委員では副委員長、また広報教材委員では委員長を務めさせていただきました。肩書きはともお偉いさんみたいですが、お寺のことは右も左もわからないし、仏青以外ではお寺に携わることはありませんでした。

そんな私がここまでですごく楽しくやってこれたのは、中央委員のみなさん・指導講師や事務局の方々のおかげです。

3年間の中で一番印象的なのは、やはり50周年記念の集いです。Oからのスタート。ああでもない、こうでもない、もっとこうしたい！など話をしていく中で、決まりだしていく企画が、当日たくさんの人を笑顔にすることができると嬉しかったです。開会式では司会も務めさせていただきました。目立ちたがりの私にとって、とても貴重な経験でした。

このご縁をこれからも大切にしていきたいです。本当にありがとうございます。中央委員最高！ではまた逢う日を楽しみにしています。



仏教青年連盟中央副委員長
第4ブロック代表 安芸教区
濱本信太郎

刹那的な3年間でした。これまでより任期が長くなったにも関わらず、過ぎ去る時間の速さと、やり残した事はあまりにも大きかったと思います。ですが、少しずつ仏青の活動が良い方向に変わり始めたことは、この3年間で確実に感じています。私は今期で任を降りますが、地方から中央をずっと見守っております。
兼好法師の教えに、仏青活動を行う上で一つの指針となる言葉があるので、来期の委員さんにお伝えしたいと思います。「身を正しくし、国（組織）を保つためには、どんなやり方をしたら、たちまち衰退してしまうかを予測し、その行動は行わずに、たとえわずかでも衰退するのが遅くなるような行動を行うのがよい。（徒然草より）」私たちの大好きな仏青が衰退せぬよう、さらなる発展を遂げられるよう、お力添え下さいます。
最後に、この場を借りて今期委員の皆様にお礼を申し上げます。3年間ありがとうございます。「みんな愛してるぜ。3年間ありがとう。」



仏教青年連盟中央委員
第5ブロック代表 熊本教区
古閑大誠

3年間を振り返って、中央委員をさせてもらい感謝しています。中央委員関係の方々、連絡協議会、50周年大会を通じて沢山の方たちと出遇いました。また、そこからのご縁でイベント等にも参加し、とても充実した3年間を過ごしました。

普段の生活では決して出遇うことのない沢山の方々と出遇い、自分自身を見つめなおすこともできましたし、自分ももっとやるうってエネルギーをもらうこともできました。

中央委員やって任期中に何が出来たか分かりませんが、これから先、この3年間で経験させてもらったことをもとに、仏教青年会がもっと盛り上げていけるようやっつけていきたいと思えます。3年間ありがとうございました。



仏教青年連盟中央委員
第5ブロック代表鹿児島教区
幸本直之

中央委員として三年。鹿児島から京都まで何度往復したでしょうか。鹿児島と違い都会で寒い土地でした。最初の頃はワクワクでしたが、今となれば普通となりました。でも、中央委員のメンバーと会うのは、いつも楽しみにしていました。委員の皆さんはとてやる気があり、人の意見を必ず肯定して話が進むので楽しい会議でした。

大会の準備は流石に大変でしたが、委員だけでなく、事務局の方々もとても協力的で、やりがいもありました。中央委員をすることで、他のブロックの活動や考え、方向性がわかり、もっと自教区、自ブロックの活性化をしたいと思います。

お坊さんと門徒さんの考え方、思いは違つとところが多いと感じましたが、これからもお互いにいい部分を高めながら、協力し合えばもっともっと楽しくいい団体になれると思えました。これからも若い門徒とお坊さんで活動できる団体作りをしていきたいです。

様々な経験をさせてただけて大変貴重な3年間でした。いまままでありがとうございました。

合掌

長いようでもあり、またあつとついう間でもあつた私の中央委員としての3年間がもうすぐ過ぎ去ろうとしています。

右も左も分らない中で多くの友だちに出会えたこと・なれたことに感謝しております。

たくさんさんの出合いがあり、共に笑い、長い時間対話し、ひとつの方向に向かっていく難しさを知り、時に涙し、また別れも...



仏教青年連盟中央委員
第1ブロック代表北海道教区
高井道雅



仏教青年連盟中央委員
第3ブロック代表 滋賀教区
高岡充基

大学生活と併せて務めるということは、最初抵抗があり、続けられるだろうかという不安でいっぱいでした。何しろ、他の委員の方がたは自分より年上ばかりで、それだけでも自分は浮いてないかと思うほどでした。

2年目の記念式典を催すにあたって、1年目からいろいろ議論をしていますが、やはり自分の思っていることを口に出せなかつたり、分らないところがあつたりと、悶々とした気持ちでいっぱいでしたが、このように無事に3年間過ごせたことは、他の皆さんのおかげだつたと思います。

3年目の今の気持ちで、もう少し最初から関わられたら良かったなと、後悔もしています。



仏教青年連盟中央委員
第4ブロック代表 備後教区
池上龍之介

最初は右も左もわからんまま入った仏青も全国のみんなとご縁ができ、サイコー尽くしの3年間でした。

「みんなとワイワイ飲む宴会もサイコー」
「宿泊先で親睦を深めるのもサイコー」
「みんなで作くりあげたイベントもサイコー」
すべてが最高です！！

まあ、そんなこんなで楽しかったです。来期もおるんじゃけど、とりま ほしいじゃーね♪ みなさん、さようなら。



仏教青年連盟中央委員
第2ブロック代表 東海教区
小林大輝

中央委員になり、本山である西本願寺がより身近になりました。全国遠近各地から集まる中央委員と京都で行った仏教青年連盟結成50周年の大会にむけて会議を重ねた結果、当日は盛大な大会となつたことに一番の喜びを感じています。一つのことに向かって活動するうちに結束力も高まりました。学生の頃の文化祭に近い経験だと思えます。仏教青年会だけでなく様々な団体に協力、参加していただいたことも有難いご縁でした。今は本山をより身近に感じて貰えるようイベントの為会議を重ねています。仏教青年会に興味のある人はお近くの別院か所属寺に問い合わせてください。最後に、中央委員に選出していただき、経験したことを教区でも実践していきたいと思つています。



3年をともに過ごした仏青連盟事務局&ゆかいな仲間たち



仏教青年連盟中央委員
第1ブロック代表 東京教区
野田豊

仏教青年連盟に中央委員があることすら知らなかつた私ですが、3年間を振り返って感じてきたことは「やってみて良かった」です。任命されてからしみじみ「あれ、今更だけど殆ど仏青の事分かつてないや」と思ったのです。しかも、組織の改革初年度で『門徒だけの中央委員』やら『仏教青年連盟50周年』とか何やら盛り上がっている。もう自分が知識も経験も無くノーガード過ぎて、内心笑うしか無かつた。

そんな私でしたが全国から集まつた中央委員の仲間たちに支えられ、西本願寺で共に真剣に笑い、時々悩み、そしてまた笑いながら過ごせた時間はつと忘れないでしょう。

今後も中央での経験を糧に仏青活動に関わっていきたいと思つています。ご縁をいただいた皆様方、本当に有難うございました。

南無阿弥陀仏 合掌

A young man with dark hair, wearing a grey hoodie, blue jeans, and red sneakers, is sitting on a thick, mossy tree branch. He is looking upwards and to the right. The background is a dense forest of green trees with some pink flowers scattered throughout. The overall atmosphere is peaceful and natural.

君がいてくれて
ありがとう

MAKOTO no.154

浄土真宗本願寺派 仏教青年連盟機関誌 2018年1月1日発行
編集 / 発行：仏教青年連盟 広報教材委員会 〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル浄土真宗本願寺派 宗務所内 TEL：075-371-5181(代)